

さんぼみち

発行者

兵庫県立総合リハビリテーションセンター
 リハビリテーション中央病院
 〒651-2181 神戸市西区曙町 1070
 TEL (078) 927-2727
 FAX (078) 925-9203

ホームページ <http://www.hwc.or.jp/hospital/>



糖尿病の新しい診断基準について

内科

糖尿病は、インスリン作用の不足による慢性的高血糖を特徴とし、眼、腎臓、神経などの細かい血管の合併症をきたしやすく、心臓、脳、下肢の動脈硬化症を促進し、生命をも脅かすこわい病気です。この糖尿病については、日本糖尿病学会が1982年に診断基準を設けて以来、利用されてきましたが、この度は1997年の米国糖尿病学会の報告および1988年の世界保健機構の暫定報告を参考にして、診断基準を改訂しています。その概要は図にしめしていますが1. 空腹時血糖値 126mg/dl、75gブドウ糖負荷試験で2時間値 200mg/dl、随時血糖値 200mg/dl、のいずれが、別の日に行った検査で2回以上確認できれば糖尿病と診断されることになりました。血糖値がこれらの基準を越えても1回だけの場合は糖尿病型と呼び、次の(から)のいずれかの条件がみたされた場合は、1回だけの検査でも糖尿病と診断されることになりました。糖尿病の典型的症状(口渇、他飲、多尿、体重減少)の存在、HbA1c 6.5%、確実な糖尿病網膜症のお存在。即ち、今回の改訂で、糖尿病の診断基準がより一層厳しくなった感があります。

図 糖尿病の新しい診断基準；空腹時血糖値および75g糖負荷試験の2時間値の判定基準 (静脈血漿値、mg/dl)

	正常値	糖尿病域
空腹時値	110未満	126以上
75g糖負荷試験の2時間値	140未満	200以上
75g糖負荷試験の判定	両者をみたまものを正常型とする。	いずれかをみたまものを糖尿病型とする。
	正常型にも糖尿病型にも属さないものを境界型とする。	

随時血糖値 200mg/dlの場合も糖尿病型とみなされます。正常型であっても、1時間値が180mg/dl以上の場合は、180mg/dl未満のものに比べて糖尿病に悪化する危険が高いので、再検査や経過観察が必要です。

福祉用具についての耳よりの話

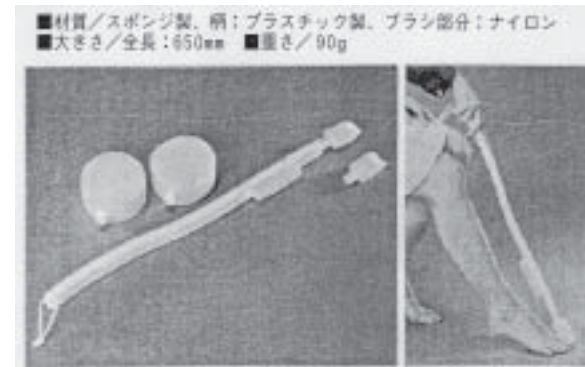
ーお風呂用スポンジキットー

リハビリ療法部

この用具の宣伝文句は、「背中やつま先まで手が届かない方が無理なく使うことが出来ま

す」と紹介されています。早速、購入し2名の慢性関節リウマチの患者さんに試用してもらいました。結果は、

1. 柄の部分が持ちにくい(手の機能に合っていない)
2. 握り部分の凹凸が、握ったとき違和感を感じる。
3. ブラシの取り付け部分が回転してしまう。
4. ブラシの取り替えが困難、あるいは固定力が出るまで締めることが出来ない。
5. つま先を洗うとき、柄の部分のカーブにより力が伝わりにくい。
6. 大きなブラシを使用するとき、重たくなり使用困難 等々。



このように様々な意見が寄せられました。どんな福祉用具でも、「カタログ情報だけで選択してはいけない」と改めて認識させられました。皆様こんなことをしていませんか...

MRI (磁気共鳴画像)とは?

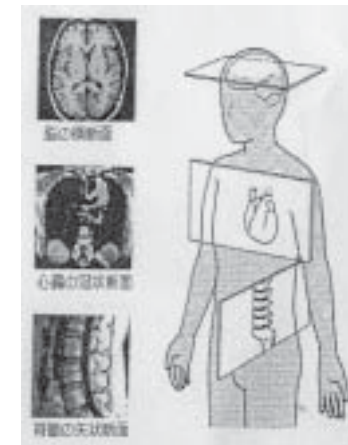
放射線科

近年、X線撮影などの画像診断法に加えて、MRI (Magnetic Resonance Imaging) 検査という言葉がよく聞かれます。ここではMRI検査について簡単にご紹介いたします。

一般に使われている画像診断法であるX線撮影及びCTをMRIと比べてみますと、X線撮影とCTではX線を使いますが、MRIでは強い磁石と電波を使って画像をつくります。

また、X線さつえいでは骨が邪魔をして内側がうつらないことがあります。CTでは骨による障害陰影により、画像を識別しにくい場合があります。MRIでは骨の邪魔もなくからだのあらゆる角度の断面が正確にうつしだされ病巣と他の正常組織(骨、軟部組織)とが識別しやすくなりますので病気の部分の診断にたいへんやくにたちます。

MRIではたとえば次のような断面をうつすことができます。



ちょっと!

去る1月6日(木)13時より病院1階ロビーにおいて小学生等のみなさんによる合唱、合奏階を催しました。沢山の方に食後のひとときを楽しんで頂けたことと存じます。終了後、小学生のみなさんから患者さんへ励ましの色紙をいただきました。1階の受付カウンターに飾っておりますので、どうぞご覧ください。



中央病院ボランティア推進委員会